

3 本時の学習 (4/6)

- (1) 本時の目標

- ・その行い方を理解するとともに、リズムカルな助走から踏み切って跳ぶことができる。【知識及び技能】
 - ・自己の能力に適した課題の解決の仕方、競争や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。【思考力、判断力、表現力等】
 - ・運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすること。【運動・身体活動】
- (2) 準備

めあて板 ケンステップ ミニハードル コーン メジャー とんぼ わたしたちの体育 振り返りボード ワークシート ipad
- (3) 展開

※目標は全観点書き、本時、特に評価する項目は太字で記載する。

※目標の観点は、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」だが、体づくり運動領域では「知識及び運動」とする。

学習活動	児童のつぶやき	言葉掛け・教え合い	核となる言葉掛け	教師の支援（○、吹き出し）と評価★
1 場の準備をし、やってみよう（にこにこタイム）で予備運動を行う。（5分） 2 本時のめあてを確認する。（5分）	遠くに跳べないときの助走ってどんな感じ？ 大股になっている。 小股になっている。	※「児童のつぶやき」は、想定されるつまずきや困り感、次なる活動（めあて）への意欲等を書く。また、児童に期待する単元における体育の見方、考え方に繋がる言葉には、〈する〉、〈見〉、〈支〉、〈知〉を記載する。 ※「言葉掛け・教え合い」は、それを克服するような文言を書く。		○ホワイトボードに本時の活動を掲示し、学習の見通しをさせる。 跳べないときの助走を想起させ、どのような助いのかという点に着目させる。 最後がどのような動きになっているのかが大とに気付かせる。
3 運動のポイントを確認し、類 ○ミニハードル連続ジャンプ	※本時の目標（特に評価する項目）、めあて、評価の整合性を確認する。なお、特に評価する項目が2つある場合には、それらを網羅するようなめあてを設定することが望ましい。	リズムよく跳べないな。 友達のリズムを言葉で表してみよう。 友達のリズムを声に出して言ってみよう。 タ・タ・ターンのリズムで跳んでみて。【支】		○よい動きをしている児童に対して、どのような感じで動いているのか尋ね、言語化できるように支援する。 ○友達にアドバイスしたり、励ましの声掛けをしたりしている児童や意欲的に運動に取り組んでいる児童へ積極的に賞賛する。 ★【思考・判断・表現】
○リズムアップ助走	踏切でスピードがいちばん速くなるようにしよう。【する】 ※「技能的な言葉掛け」は、しっかりと検討・吟味する。	リズムは上がるけど、スピードがあがらないな。 徐々に体を起こしながら走るというね。 スタートは強く地面をおして走ってみよう。 最後が小股になっているよ。ipadでとってあげる。【み・支】	※「核となる言葉掛け」は、その時間の核となる学習内容に照らし合わせ、児童の思考力を促し、言語活動に結びつくような言葉を検討・吟味する。	○できるだけ高いスピードを保ったまま、リズムをあげるように助言する。 ○児童へどんなことを考えていたのか、なぜ動きの質が高ったのかなどを尋ね、児童に考えさせるように促す。
4 やって見た感じを話し合う。（5分）	高跳びやハードルと同じでタ・タ・ターンのリズムがよかった【知】 始めは地面を力強くけて、最後は素早くける感じがいいよ。【する】 助走の力加減を言葉で表すとどんな感じ？			○話し合い、自分と共通する感じや異なる感じをもっている友達がいることに気付かせる。
5 つかんだコツを生かして、跳んでみる。（10分）	だんだんリズムが上がっていいよ。【見】 リズムアップ走みたい到最后にリズムが早くなるように助走して見て。【支】 ※指導案中には、技能のポイントとなるようなイラストを積極的に活用する。「わたしたちの体育」のものが適切。	助走のどんなことを意識して跳んだかな？		○跳んだ児童にどんな感じで助走をしたのか聞き、感覚を言語化していく。 ★リズムカルな助走から力強く踏み切って跳ぶことができる。【知識・技能】 ★【主体的に学習に取り組む態度】
6 ふり返りタ	力強く跳ぶ助走のコツは徐々にリズムを上げるといいことがわかった 友達のアドバイスがわかりやすかった。 もっと遠くに跳びたいな 次は自分の課題にあった		※評価の観点は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」とする。（体づくり運動領域も同様に「知識・運動」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」とする。）	○次時のめあてを確認する。